

新除草・調節剤

クミリードSM粒剤

ベンチオカーブ・シメトリン・ MCPB 除草剤

(取扱メーカー) クミアイ化学工業株式会社

対象作物：普通移植水稻・稚苗移植水稻。

成分・作用特性：本剤は、S-(4-クロロベンジル)-N,N-ジエチルチオカーバメート〔ベンチオカーブ〕10.0%，2-メチルチオ-4,6-ビス(エチルアミノ)-S-トリアジン〔シメトリン〕1.5%，2-メチル-4-クロロフェノキシ酢酸エチル〔MCPBエチル〕0.8%を有効成分とする粒剤である。

本剤は、稚苗移植・普通移植栽培の一年生雑草および多年生雑草の同時防除剤で、作用機作の異なるベンチオカーブ・シメトリン・MCPBの3成分が相乗的に働いて、有効雑草の適用幅が広く、ノビエ・コナギなどの一年生雑草やマツバイ・オモダカ・ヘラオモダカ・ホタルイ・ミズガヤツリなどの多年生雑草、その他ウキクサ・モ類などに卓効を示す。散布の適期幅も広く、雑草の発生始期からノビエの3葉期まで安定した効果がある。また、土壌吸着性がすぐれているため、水の移動に伴う水平移動が少

なく、大区画水田でも効果が安定している。

毒性：急性経口毒性は、ラットに対しLD₅₀(mg/kg)で、ベンチオカーブ…1,300, シメトリン…750, MCPBエチル…680と低く普通物である。魚毒性は、コイで48時間TL_m(ppm)で、ベンチオカーブ…3.4, シメトリン…26, MCPBエチル…>10でB類である。

使用法：一年生雑草(発生始期～ノビエ3葉期)と多年生雑草(発生始期～4葉期)の両方に効果があるので、対象となる雑草のステージに合わせる。3～5cm程度の湛水状態で10a当たり3～4kg均一に散布する。

適用地帯：普通移植水稻…全域の普通期栽培地帯および関東・東山の早期栽培地帯、稚苗移植水稻…九州・南四国を除く全域の普通期栽培地帯。

使用上の注意：①砂土および極端な漏水田では、効果不足や薬害の恐れがあるので使用をさける。②深水、活着不良、稲が軟弱な場合、強還元田および未熟有機物多用田では、薬害を生じやすいので使用をさける。③水稻の活着後、雑草の発生始期から盛期(ノビエ3葉期、寒地では2.5葉期)までに散布する。ホタルイ・ミズガヤツリでは発生始期～4葉期、ウリカワで

種類名 (商品名)	剤型	有効成分 含有率	対象 作物名	使用 目的	適用 場所	使用 時期	希釈 倍数	使用方法	登録会社
植物成長調整 剤 (つづき)				無種子化 処理の第 1回ジベ レリン処 理時期の 早期への 拡大。	露地栽培 園。		(倍) 300 〔100〕 ppm		

新除草・調節剤

は発生始期～5葉期までが本剤の散布適期である。④雑草の発生活長は植代期間の長さ、地域性、気象条件などにより異なるので、使用時期が遅れないようにする。⑤稚苗(種2～4葉)および機械移植の場合は、苗の素質、浅植え、低温などの条件により薬害の恐れがあるので、初期除草剤との体系で使うと安全である。⑥散布後の異常高温(急激な温度の上昇、梅雨あけ前後の高温)、異常低温などの予想される条件

下や蒸散の激しいとき、高温時(タバコ・イグサの後作、2番稲など)では、薬害の恐れがあるので使用はさける。⑦3～5cmぐらいの湛水状態で散布し、散布後3～4日間ぐらいはそのままにし、田面を露出させたり、水を切らないようにし、かけ流しなど水を動かさない。

⑧通常の使用では魚貝類に対し影響は少ないが、一時に広範囲に使用する場合は十分に注意する。

財団法人日本植物調節剤研究協会編

Weed List in Asian-Pacific Area

各国の雑草の呼称名を学名と対照した雑草名鑑。学名に対し日本名、英名、ハワイ名、インドネシア名、中国名、台湾名、ソビエト名、韓国名を対照している。

A4版 47ページ
定価 2,000円(送料別)

東京都港区芝愛宕町1-3 全国農村教育協会内
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京(03)436-3388番

編集後記

孟春…春のはじまり：春の胎動はすでに地中で開始され、多年生雑草の匍伏茎からは新しい生命が育ち、地表面近くまで達している。

多年生雑草の越冬の姿をみると、植物の種族保存本能を垣間見ることができる。寒波の訪れとともに地上部は枯れ果て、翌年に萌え出る新芽を保護しつつ土にかえり、種族繁栄のための栄養源となる。このようにして繁殖を続け、それでも足りない栄養分を人間どもが施した肥料から養分を奪取したために、農業を営む人間どもから嫌われる羽目にいたったわけである。さらに意地悪な性質を持つセイタカアワダチソウなどは、他の一年生雑草の発芽を抑える成分を排出し、他の雑草の繁殖を押さえてしまう。

このように多年生雑草の生態を眺めてみると、確かに農業を営む人間から嫌われる理由がある。

そこでこの種の雑草を退治しようとして、速効的茎葉処理剤を散布すると、地上部は枯死するが翌年になるとそれ以上にたくましくなった多年生雑草が萌芽してきて逆効果となる。そこでこの種の雑草退治は根部から吸収移行し、新しい生命の源を断つ化学物質を用いるのが得策だ。

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都港区芝西久保桜川町2番地
電話 東京(03)502-4188(代)

昭和51年3月発行

植調第9巻第12号

¥250(送料140)

編集人 日本植物調節剤研究協会常務理事 吉沢長人
発行人 植調編集印刷事務所 広田伸七

東京都港区芝愛宕町1-3 全国農村教育協会内
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京(03)436-3388番